

エージェンシーを発揮した子供の姿と授業づくりのポイント

◎エージェンシーを発揮した子供の姿は、授業の中でたくさん現れます。
ここでは、各教科等において、特に現れてほしい子供の姿を重点的に示しています。

令和5~7年度
各教科等授業改善プロジェクト



各教科等で特に現れてほしい子供の姿

幼児教育

○自ら周囲の環境に働き掛けて、遊びを生み出している

国語

○追究の過程において、言葉への気付きを手掛かりに、課題解決に向けた考えを繰り返し問い直している

社会

○社会的事象の特色や意味、社会課題の解決策等を多面的・多角的に考察、構想（選択・判断）し、図や文にまとめたり説明したりしている

算数・数学

○日常生活や社会、数学の事象に関わる数理的な問いを見いだしている
○数学的な表現を用いて交流し、自他の考えを広げ、深めている

理科

○日常生活や社会の自然事象から問題を見だし、課題を設定している
○多面的な視点からより妥当な考えをつくり出している

生活

○なりたい自分を目指して、学習対象に関わり続けている

音楽

○曲や演奏のよさや美しさを見付け、確かめながら聴き返したり、思いや意図を持って音楽表現の工夫を試したりしている

各教科等の授業づくりのポイント

・ 幼児の行動や心の動きを温かく受け止め、幼児が安心して自己発揮する環境づくりを行う。
・ 一緒に遊びに参加して、モデルとして環境との関わりを示したり、幼児同士が思いや願いを共有できるよう援助したりする。

・ 主たる指導事項に焦点化して単元を構想し、課題解決までのイメージを児童生徒と共有する。
・ 児童生徒が言葉に立ち返り再考したくなる「しかけ」を用い「かわり」を行う。
→詳しくは、令和6年度授業改善研修会資料参照

・ 課題に対する予想を基に、単元の学習計画を立てる活動を設定する。
・ 考えを深めるための効果的な資料を提示したり、目的を明確にした交流の場を設定したりする。
→詳しくは、令和6年度授業改善研修会資料参照

・ 解決方法、理由、性質、関係等への着目を促す環境の構成や問いかけを行う。
・ 他の考えを理解する活動と、比較・検討、関連付けを図る活動を意図的に設定する。

・ 対象の自然事象と関わる中で児童生徒の素朴概念が現れる、ストーリーのある単元を構想する。
・ 理科の見方・考え方を働かせた多様な考えが生じる学習形態や表現方法等を取り入れた活動を展開する。

・ 児童の思いや願いに寄り添い、支え、見守り、小さな成長を認める姿勢を大切にする。
・ 振り返りの際に、単元の課題の解決状況と次に取り組みたいことを視点として示す。

・ 音や音楽を捉える視点となる音楽を形づくっている要素を焦点化して、学習内容のつながりを意識した題材を構想する。
・ 児童生徒の多様な気付きや感じ方を共有・共感しながら、個々の考え方や感じ方が広がる言語活動と音楽活動を設定する。

エージェンシーを発揮した子供の姿と授業づくりのポイント

各教科等で特に現れてほしい子供の姿

体育・保健体育

- 自己や仲間の課題を見付け、自他の気付きや他者の意見を生かして自ら考え判断し、課題解決の学習に取り組んでいる

図画工作・美術

- 自分が表したいことを考え、材料や表し方を決めて、自分なりに工夫して表したり、作品や行為に込められた思いや願いを読み取り、自らの表現に生かしたりしている

技術分野

- 社会からの要求、安全性、経済性、環境負荷等の視点から、課題の解決策を構想したり改善・修正したりしている

家庭・家庭分野

- 生活の中から問題を見いだして題材の課題を設定し、解決に向けた学習計画を立てている

外国語活動・外国語

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて既習表現を駆使しながら自分の思いや考えを伝え合っている

特別の教科 道徳

- 道徳的価値を自分との関わりで捉え、広い視野から多面的・多角的に考え、よりよい生き方への思いや願いを深めている

特別活動（学級活動）

- 問題や課題を自分事として捉え、集団や自己をよりよくするための解決方法を考え、実践している

総合的な学習の時間

- 最適解や納得解に向けて、多様な他者との関わりから自分の考えを確かに行っている

各教科等の授業づくりのポイント

- ・身体活動量を確保した上で、ICT機器等を活用し、仲間と関わりながら、自他の課題を見付けたり、課題を解決したりする活動を設定する。
- ・気付きや意見を引き出す発問をし、児童生徒が仲間と意見交流して課題の解決方法を考えたり、選択したりする場面を設定する。

- ・児童生徒の実態に合わせて、材料や表し方を繰り返し試すことができる環境を設定する。
- ・表現と鑑賞が一体化する場・空間・機会・時間を設定する。

- ・三年間を見通して、選択、管理・運用することで解決できる問題から、改良、応用しなければ解決できない問題へと段階的に設定する。
- ・他者との意見交流や試行・試作等を基に、複数の視点から解決策を検討する場を設定する。

- ・題材に応じて、問題を見いだす活動を「見本の観察」「実際の試し」「生活場面の想起」から選択する。
- ・題材の学習内容に合わせて、家庭・家庭分野の学習の過程を柔軟に変更する。
→詳しくは、令和6年度授業改善研修会資料参照

- ・児童生徒にとって自分事になるような目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定する。
- ・単元末の具体的な姿に基づいて言語活動に取り組む様子を見取り、伝える内容や用いる表現に関する気付きを引き出す発問をする。

- ・指導の意図を明確にし、多様な考えを引き出す中心発問と考えを深める補助発問を精選する。
- ・多様な感じ方や考え方の交流を通して得られた納得解を基に、自己を見つめ直す振り返りを行う。

- ・多様な意見や立場等を認め合い、折り合いを付けて「合意形成」を図る場を設定する。
- ・これまでの取組の振り返りや話し合いを生かして、実現可能で自分に合った解決方法を一人一人が「意思決定」する場を設定する。

- ・探究課題との出会いの際に、現在の状況と理想の姿を時間軸・空間軸・立場軸で比較する活動を設定する。
- ・目的や相手を確認したり、考えを整理したりして、児童生徒を支えながら共に探究する姿勢を大切にする。